

自己評価報告書(最終報告)

コース等名

幼年発達支援コース

記載責任者

浜崎 隆司

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ. 学長の定める重点目標

Ⅰ-1. 教員養成の質保証

大学の機能別分化・機能強化が求められる中、本学は教員養成大学として高度専門職業人としての教員を養成することを目標としている。教員養成の質保証のため、専攻・コースではどのような取り組みを行うか、具体的な方策を示してほしい。

1. 目標・計画

幼児教育専修では、ここ数年、留年する学生が続くとともに、教員や保育士を目指す学生が減少している。こうした状況を踏まえ、1年次よりコースの教員による教員・保育士になるための心構えや動機づけについての支援を行う。さらに、コースが収集している採用試験に関する情報、及び過去の修了生、卒業生からの採用試験に関わる情報を学生に積極的に提供し、就職に対する意識や意欲を高める。また、就職支援室で企画される模擬授業、模擬集団討論等の就職支援事業への積極的参加を促し、学生の就職活動をサポートする。

2. 点検・評価

幼児教育専修では、ここ数年、留年する学生が続くとともに、教員や保育士を目指す学生が減少している状況を踏まえ、1年次よりコースの教員による教員・保育士になるための心構えや動機づけについての支援を行った。動機づけの低い学生や実習等での悩み不安を持つ学生には実習先の先生とともに心理的サポートを行った。さらに、コースが収集している採用試験に関する情報、及び過去の修了生、卒業生からの採用試験に関わる情報を学生に積極的に提供し、就職に対する意識や意欲を高めた。また、就職支援室で企画される模擬授業、模擬集団討論等の就職支援事業への積極的参加を促し、就職試験対策を行った結果、全員(6名)幼児教育関係へ就職(幼稚園・保育所等)した。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

教育に関しては、学生の教育実践力向上を図るため、附属幼稚園教員や幼年発達支援コースの修士課程を修了した保育士に、幼児教育、保育内容に関わる講義の嘱託講師として登用し、保育現場により即した実践的指導力の養成を目指す。さらに、卒業論文・修士論文の指導に関しては、中間発表等の開催を通して、学生が指導教員以外の教員の指導が受けられるような機会を設けながら、コース教員全員が協力し合って指導できる体制をとる。学生生活支援に関しては、学生・院生の生活全般を支援するため、心理系の教員を中核として、心理相談などとの協力体制をつくるとともに、学生が進路や悩みを気軽に相談できる雰囲気作りをコース内で行う。

2. 点検・評価

教育に関しては、学生の教育実践力向上を図るため、附属幼稚園教員や幼年発達支援コースの修士課程を修了した保育士に、幼児教育、保育内容に関わる講義の嘱託講師として登用し、保育現場により即した実践的指導力の養成を目指した。さらに、卒業論文・修士論文の指導に関しては、中間発表等の開催を通して、学生が指導教員以外の教員の指導が受けられるような機会を設けながら、コース教員全員が協力し合って指導できる体制をとった。学生生活支援に関しては、学生・院生の生活全般を支援するため、心理系の教員を中核として、心理相談などとの協力体制をつくるとともに、学生が進路や悩みを気軽に相談できる雰囲気作りをコース内で行った。学生の指導は、共有できるものは教員でコース会議の折に提案し、コース教員全員が協力して指導できる体制を作った。本年度の心理相談件数は5件あった。

Ⅱ-2. 研究

1. 目標・計画

コースの教員が各自、科学研究費の申請や研究充実のための環境整備に努める。
本コースは、構成員が5名と少なく、昼夜開講制大学院生の指導のため、夜間の勤務や各種委員会での負担も大きい。こうした不利益を相互の協力によって軽減し、科学研究費補助金の確保に努めてきた。今後もコースの教員間で協力し合って申請を行う。さらに、コースでの共同研究をフレンドシップ事業等として立ち上げ、研究を展開する。
連合大学院の博士課程後期の学生とも共同研究体制を組みその成果を、学会発表、論文化することを目的とする。

2. 点検・評価

コースの教員が各自、科学研究費の申請や研究充実のための環境整備に努めた。本コースは、構成員が4名(平成24年10月より5名)と少なく、昼夜開講制大学院生の指導のため、夜間の勤務や各種委員会での負担も大きい。こうした不利益を相互の協力によって軽減し、科学研究費補助金の確保に努めた。コースに関しては、科学研究費に関しては1件、学長裁量経費1件の資金を得ている。フレンドシップ事業として「附属幼稚園と自然プロジェクト」を立ち上げている。
連合大学院の博士課程後期の学生とも共同研究体制を組みその成果を、学会発表(2件)、論文化(2件)した。
昼夜開講制大学院生の研究意欲を高めるため、院生に日本保育学会へ入会させ、修士論文の発表(25年5月保育学会発表申し込み)の申し込みを行った。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

大学運営の根幹となる各種委員会に出席し、職務を遂行する。特に、学部教務、大学院教務関係及び学部入試、大学院入試関係、さらに学生支援関係の運営に積極的に関わる。

2. 点検・評価

大学運営の根幹となる各種委員会に出席し、職務を遂行する。特に、学部教務、大学院教務関係及び学部入試、大学院入試関係、さらに学生支援関係の運営に関わった。そのほか本コースからは、基礎・臨床系部会副部長1名、連合大学院先端課題実践開発連合講座副議長1名が選出されている。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

1. 目標・計画

以下の具体的な活動を通して附属学校・社会と連携、及び国際貢献を進める。
① 附属幼稚園や協力園との連携を教育実践フィールドや共同研究、共同プロジェクト研究として深めるとともに、相互の教育・研究の発展に努める。
② 教育支援講師・アドバイザーをはじめ、積極的に保育所・幼稚園等に出向き、助言等を行う。
③ 国外の留学希望者を積極的に受け入れる。
④ コース学生の留学希望者が協定校へ留学できる案内や指導を行い、留学への準備を支援する。

2. 点検・評価

① 附属幼稚園や協力園との連携を教育実践フィールドや共同研究、共同プロジェクト研究として深めるとともに、相互の教育・研究の発展に努めた。
附属幼稚園との共同での自然プロジェクト(正式名称:附属幼稚園と自然プロジェクト)を実施した。
② 教育支援講師・アドバイザー(コース総計3件)をはじめ、各講演会(コース総計2件)への要請受諾、さらに積極的に保育所・幼稚園等に出向き、助言等を行った。
③ 今年度は、留学生の希望もなく受け入れた留学生はなかった。
④ コース学生の留学希望者が協定校へ留学できる案内や指導を行い、留学への準備を支援する体制は作ったが、希望者がいなかった。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)